

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400401		
法人名	社会福祉法人きづき会		
事業所名	グループホーム きづきの家(縁ユニット)		
所在地	出雲市大社町杵築西2629		
自己評価作成日	平成29年2月7日	評価結果市町村受理日	平成29年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成29年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年に引き続き、地域との関係づくりまた、入居者の思いを大切にケアすることを目標に頑張ってきました。昨年取り組んだ、保育園・小学校との交流、地域との勉強会を今年も行うことができました。毎年、定着したものになりたいと考えています。また、今年に入居者様の思いを大切に笑顔が増え、楽しい生活が送れるよう取り組みました。実際に、カンファレンスに参加して頂き、ご自身の思いを話せる機会を作ったり、運営推進会議に参加して頂いたりしました。今後も、継続して思いを大切に支援していきたいと思ます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大社町で、平成3年から地域の福祉に貢献してきた社会福祉法人による2ユニットのグループホームは、開設5年目を迎え、利用者さん方は落ち着いた暮らしを営んでいる。ホームは民家や集合住宅に隣接し、地域の人々と、日常的にふれあうことができる。ユニット毎の民家風の玄関を入ると、木材を活かした和洋折衷の建築が落ち着いた雰囲気を感じられる。神話の街ならではの、神楽や神事などにふれ合う機会など、楽しみ事は多い。利用者さん方は、職員にサポートされながら、調理、洗濯、買い物などのホームの日常作業をまるで家事のように、自然に行っており、役割を持つことの生きがいを感じながら暮らしている。食事は、ホールにあるキッチンで手作りした暖かいものを、職員も同じ食卓を囲み楽しんでいる。運営推進会議は二ヶ月毎に開催され、利用者本人や家族の参加も多い中で、積極的に意見が出され、ホームの運営に活かされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念の周知に努めているが、日常生活の支援の中にかかせているとは言い切れない。何か問題や、困ったことができた時は基本理念に基づき実践に繋がられるよう努力している。	「人として、人らしく、人とともに」の理念は、出来るだけ家庭に近い雰囲気、入居者、家族、職員を含め、慣れ親しんだ人とともに、安心して生活が送れるように考えられており、新しいことに取り組む時にも、都度照らし合わせている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。避難訓練の協力や、勉強会とこちらが招くだけでなく、町内の夏祭りやサロンなど積極的に参加した。たくさんの人たちに、きづきの家を知って頂き気軽に、立ち寄れる場所づくりを目指したい。	ホーム周辺には民家や集合住宅があり、外へ出かければ、挨拶を交わしたり、畑の作物やお花の差し入れなど、ふれ合う機会は多い。スーパーでの買い物など顔なじみにもよく会う。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を今年度初めて、地域にむけて発信した。きづきの家を、たくさんの方に知って頂きました。認知症への啓発運動を今後の課題にしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回、運営推進会議を実施。今年度より、入居者の皆さんにも参加してもらい、日頃の取り組みなどを皆さんに紹介している。家族の皆さんも平均4~5名の参加があり情報交換や行事等への協力依頼などしている。	運営推進会議に、利用者さんや家族が常に5から6人参加されており、ホームは利用者さんや家族さんの意見を出来るだけ取り入れている。近隣住民からの意見やアイデアは、運営に反映される。ホーム側からの提案についても、地域住民や家族は積極的に受け入れてくれており、しめ縄作りや年末大掃除などが継続して実践されている。利用者さんらしいケアの実践事例の発表や実地指導内容も報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に、運営推進会議での連絡相談を行っている。また、必要に応じて電話や窓口での報告・相談をしている。	市の担当者とは、顔の見える関係を築いており、介護保険制度のことや、利用者さんのケアについても、都度相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、行っておらず自由に出入りできる環境づくりに努めている。また、声掛けなども丁寧に行うように心掛けている。	利用者さんは、ホーム内で、自由に過ごしているだけでなく、職員の見守りの下、外出も自由に周辺を散歩する。言葉掛けもやさしく、利用者さんの表情は穏やかである。丁寧に優しいこえかけや態度は面会の家族などにもよいケアの証として受け取られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で、入居者様に対する接し方には注意を払っている。また、定期的に勉強会を開こうと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体で、理解を深める機会はもっていませんでしたので今後の課題にしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時には、ご自宅へ訪問させて頂き契約書の説明、料金や緊急時の対応などを説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様からの意見は、主に運営推進会議や面会の際に聞かせて頂いている。家族様とも、管理者だけでなく現場の職員もしっかり話せる時間を大切にしている。	運営推進会議への利用者家族の参加は、5~6人と多く、よりよいホーム作りへの意識は高く、意見やアイデアが出てくる。年末の大掃除にも積極的に参加され、今後もいろいろと協力して下さるとの申し出にもつながっている。面会頻度も多く、職員との会話の機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会にて、意見や提案をする場を設け検討している。個別には、面談や日常の会話の中から、聞き取り可能な範囲で反映する様努力している。	ミーティングや、職員会議だけでなく、日常的に職員は、気づいたことや、アイデアを上司や仲間に表現できる。出された意見は、まず、実践してみて、結果を検討しながら職員全員で取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年実施する、人事考課の結果を基に給与等の待遇面に反映している。また、職員にたいしては全員に面談を行い目標や課題の設定その他の希望を聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人独自の人事考課制度を実施し、各職員の自己評価、各事業所責任者による評価を行っている。年間の研修計画にそって、様々な研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では全体会や忘年会を通して各事業所間の交流を行っている。管理者や、介護支援専門員は、交流の機会はあるが、現場の職員は勤務等の都合もあり参加が困難な状態である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は、不安な事が多いと思う。 できるだけ、ゆっくりとコミュニケーションをとりながら安心して生活が送れるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様には、面会時等こちらから声をかけるようにし信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様より、入居前の様子や生活歴、要望などを聞きサービス内容を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などを一緒に、行いながら生活を共にしていることを忘れず、ケアにあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に自宅に帰ったり、行事への参加の声掛けをしたり、関係性を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や、馴染みの場所への外出など支援している。	利用者さんの半数ぐらいは、地元大社町からの入居であり、訪問客も多い。また、神話の街ならではの、神楽や神事などにちなんだ行事や催しなどにも参加したり、招聘したりして、交流も積極的に行っている。自宅近くの行きつけの店を利用できるよう出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握し、気のある人同士隣の席に座ってもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の施設訪問などは、特に行っていないが外部などで移転先の施設の方に出会った時は様子を聞き、質問があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの際に、本人様や家族様に希望や意向を聞くようにしている。カンファレンスにも、都合のつく方には参加してもらっている。	利用者さんの意向や思いを常に聴いている。面会にこられた家族にもどんなことが好きかなど聴き、把握に努めている。美容院や日常的な外出、また、日々の家事などの取り組みにもその方の意向が反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全ての把握は、できていない。入居時に、本人様や家族より確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の変化を、ケース記録に記載しそれを読むことで皆さんの状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様にも、カンファレンスに参加してもらっている。また、家族の方にも声をかけている。	介護計画は利用者毎のニーズに合わせた個別のものになっており、職員の観察や事例検討に合わせて、変化にも対応して変更されている。法人として組織的に書類を点検し、適正を維持している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートを作成し、細かい部分まで情報共有できるよう心掛けている。ケアプランの実施記録や日々のケアなど、気付いたことは記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や、家族様の要望に応じて支援できるようにしている。その時、その時話あいながら進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方たちとの交流(行事への参加)を、大切にし繋がりが持てるよう努力している。入所前の自宅のあった場所での繋がりが地域資源を生かし切れていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族へ報告し、利用者様とも相談し施設かかりつけ医を受診している。また、ご家族からの他医療機関への希望があった場合には紹介所にて受診をしている。	法人の理事長は、地元病院院長であることから、医療・看護のバックアップ体制は強力であり、複数の医師により、診療が細やかになされている。利用者さん、家族さん方は、健康管理に対して、安心している。緊急時にも提携している訪問看護ステーションから駆けつけてくる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と、週に一度の訪問時に報告や相談をしている。また、24時間のオンコール体制で入居者様の体調管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、口頭での情報提供、後日書面での情報提供を行っている。また、状態把握の為に定期的に訪問し様子などを確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に看取りについての説明、同意をとっている。また、重度化した場合ご本人様の意志は難しいため、ご家族様と相談しながら、主治医や訪看と連携をとりおこなっている。	看取りのマニュアルは詳細に渡って完備されている。法人に特別養護老人ホームや訪問看護、病院などがあり、質の高い認知症ケアと終末期におけるケア体制は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にきてもらい、救急法を受講。また、訪問看護にも勉強会を実施してもらい実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や、火災についての訓練は行っているが水害等の訓練はできておらず課題である。	防災マニュアルに基づき、職員、利用者、住民、消防などの合同の防災訓練が夜間想定を含めて年2回行われている。建物にも防火扉やスプリンクラーが設置されている。近くには、特別養護老人ホームがあり、食料などの備蓄も協力体制は整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	きちんとした、言葉使いで接する様心掛けしている。	ご本人が案内してくれた個室は、プライベートな時間を楽しめるように、個性が表れている。トイレ誘導の声かけは、周りにそれと悟られることなくするなど、羞恥心やプライバシーに配慮されている。職員は、病気や障害があっても明るく笑顔で話しかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いや希望を大切にしたいという、思いから本人様に聞きながら日々ケアにあたっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の配置の問題で、職員のペースで動いてしまうこともある。時間がある時は、ゆっくりと対応するよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには、気をつけている。現在、お化粧をされている方はいないが行事の時など提案できるようにしたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けなど、できる方にはしてもらっている。行事食や、外食など楽しんでもらっている。	昼食は、献立から調理まで、利用者さんが自分たちのこととして取り組んでいる。職員もさり気なくサポートしている。食事は職員も共に行いお料理や食材にちなんだ会話をゆったりと楽しんでいる。季節の旬のものを使った食事は大変おいしい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、記録し把握している。また、体重や塩分についても気を付けており気になる時には、主治医や訪看に相談し指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	こちらが、介助するかたはいいが自立している方の把握が難しい。今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで、排泄できる方にはできるだけトイレでの排泄を促している。	入居して1ヶ月程度で排泄パターンを把握して個別に排泄への援助を行っている。すべての利用者がトイレを使用できるように取り組んでいる。トイレは明るく清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを食べて頂いている。また、運動なども促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間など、すべてが希望が活かしているわけではないが努力している。早い時間に、入りたい方ゆっくり入りたい方には合わせて行っている。	身体保清だけでなく、入浴がリラックスできる楽しい機会として援助をしている。介助も本人の出来る動作を尊重している。ひとりひとりの入浴のための浴室の空調や設備は家庭的でありながらも安全快適に仕上がっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人、一人状況に応じて対応している。(加湿器や、毛布使用など)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤についてはなるだけ、把握するよう努めている。臨時薬なども、あるため何包ついているかも確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランに沿って、ケアしている。一人一人にあった気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく、希望にそって外出できるようにしているがすべてできていない。町内行事に参加したり、家にかえったりされている。	自然や賑やかさにも恵まれたホーム周辺の環境を活かして、利用者の希望や気候に応じて散歩やドライブ、買い物などにも出かけている。家族からも外出の多い日常を喜ぶ声がある。家族と一緒に外出する利用者さんも多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方には、してもらっているが全員のかたにはできていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという、希望があったときにはしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが、つくられた作品を置いたり、掲示物も定期的に変えている。	ホームの建築設計には、介護職のアイデアが十分に活かされており、アットホームで使い勝手の良さのみならず、木材や障子、床、梁、垂木用の天井や畳など、暮らしの中に粋やしなれが感じられる空間になっている。段差のないウッドデッキは、舞台にもしつらえられ、園児や小学生との交流の場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファがあり、ゆっくりと過ごせるスペースがある。しきりもないため、一人で過ごせる空間の提供ができていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた、なじみの家具をもってきてもらっている。また、仏壇などももってきておられる。	居室は明るく清潔でしゃれており、障子や持ち込まれた家具が落ち着いた雰囲気を出している。それぞれの利用者さんの個性に合わせて自由に居室がしつらえられており、居心地の良さが感じられる。掃き出し窓から町並みや北山に至る風景も眺められ、開放感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりがないため、不便な面はあるが必ず見守りをし安全面を気を付けている。		